



元担任・一貫コーディネーターがTTに（中1数学）

# 学園の小学校中学校をつなぐ 小・中一貫コーディネーターの配置 (市独自の予算による非常勤講師)

- ・ 学園開設に向け、各校に小・中一貫コーディネーターの教員を配置
- ・ (開園前2年、後1年間)コーディネーター後補充講師配置

平成17年度 :	6,021,000
平成18年度 :	6,326,000
平成19年度 :	17,643,000
平成20年度 :	34,361,000
平成21年度 :	37,935,000
平成22年度 :	17,852,000



6年間総計

120,138,000円

# 相互乗り入れ授業 後補充講師 (市独自の予算による非常勤講師)

後補充補助教員 (市費負担 非常勤講師)

講師配当時数

週10時間 × 45週 × 22校 + 交通費

**年間予算 24,714,000円**

すべての学園が開園した平成21年度以降も  
経常的経費として

各校に週10時間分の後補充講師を配置

# コミュニティ・スクールを基盤とした 小・中一貫教育校の特色ある教育活動

H23全校保護者  
アンケート結果

平成24年完全実施の新学習指導要領による、義務教育  
9年間を通じた小・中一貫カリキュラムに基づく授業

1小・中学校教員による相互乗入れ授業

効果あり 77.6%



2小学校相互、小学校と中学校の児童・生徒の交流

同 86.3%

相互乗り入れ  
授業

3小・中学校の教員の小・中一貫カリキュラム  
合同研究

同 86.7%

保護者や地域の方による学園・学校運営と  
支援(コミュニティ・スクール委員会等)

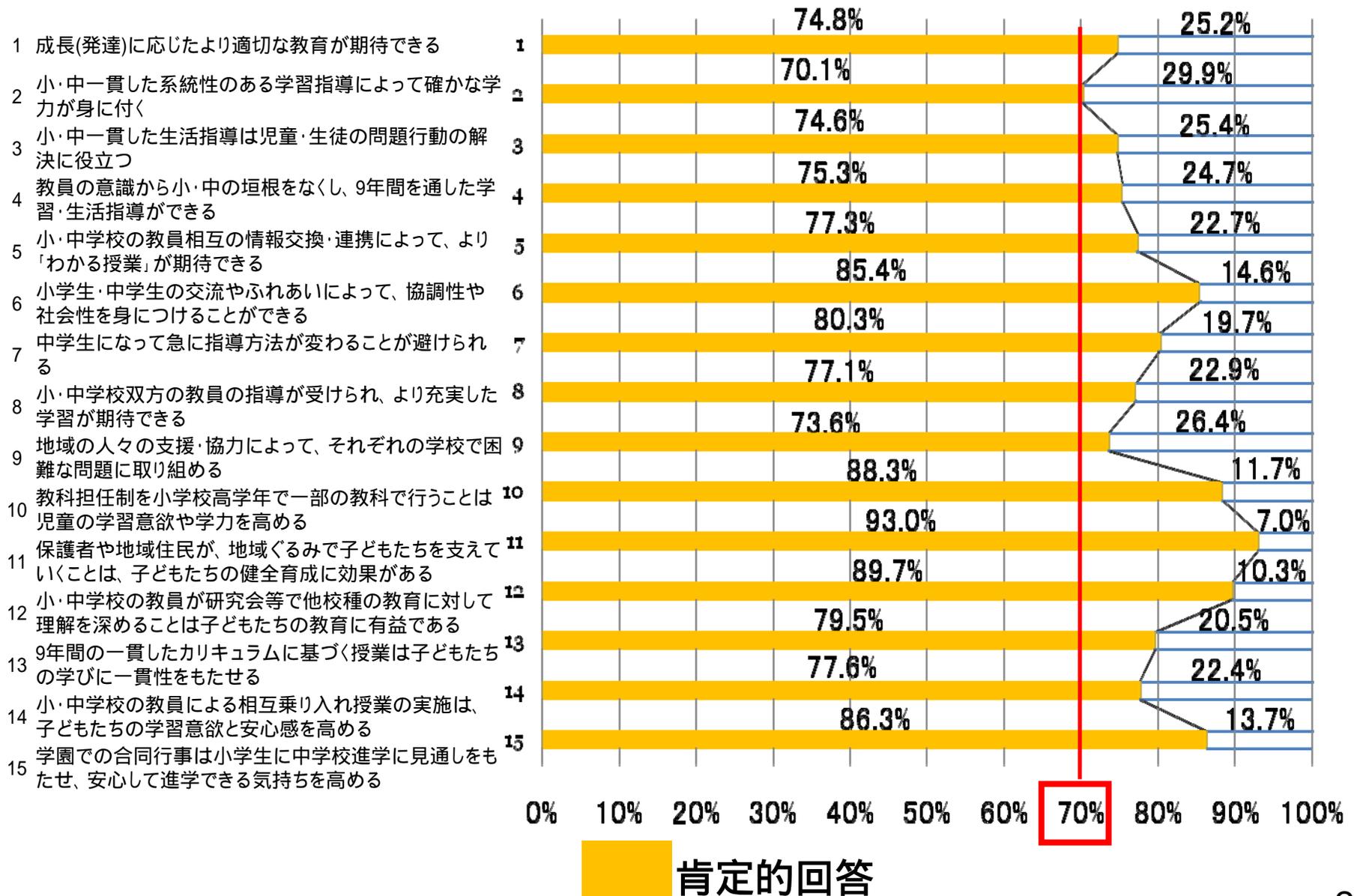
様々な大人が子どもたちとかかわる機会が増えた  
84.3%



小・中学生の  
ふれあい体験

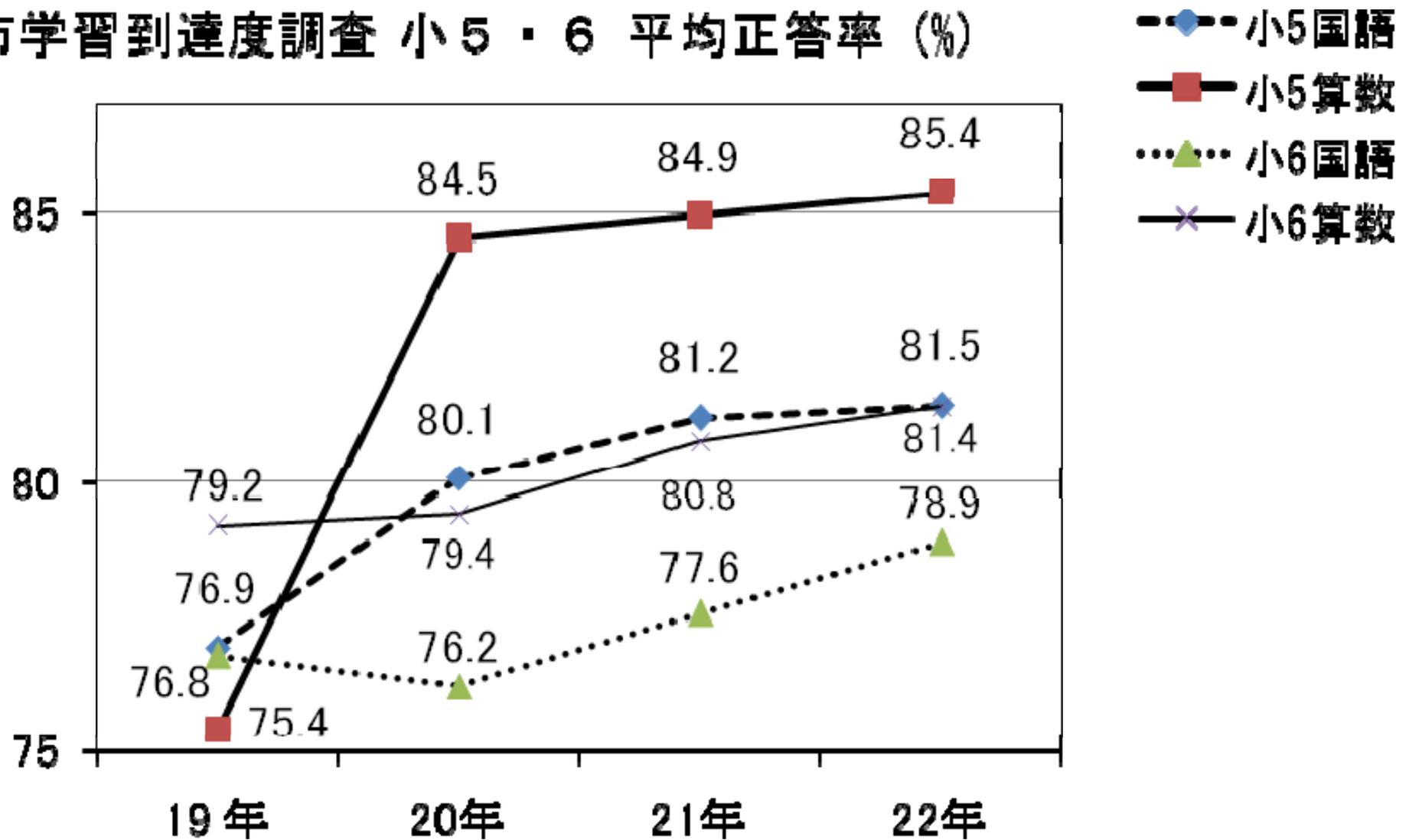
効果 学力向上、不登校(中一ギャップ)の減少、  
授業力向上、地域貢献

# 小・中一貫教育保護者アンケート結果 (N=3864 回収率46.7%)

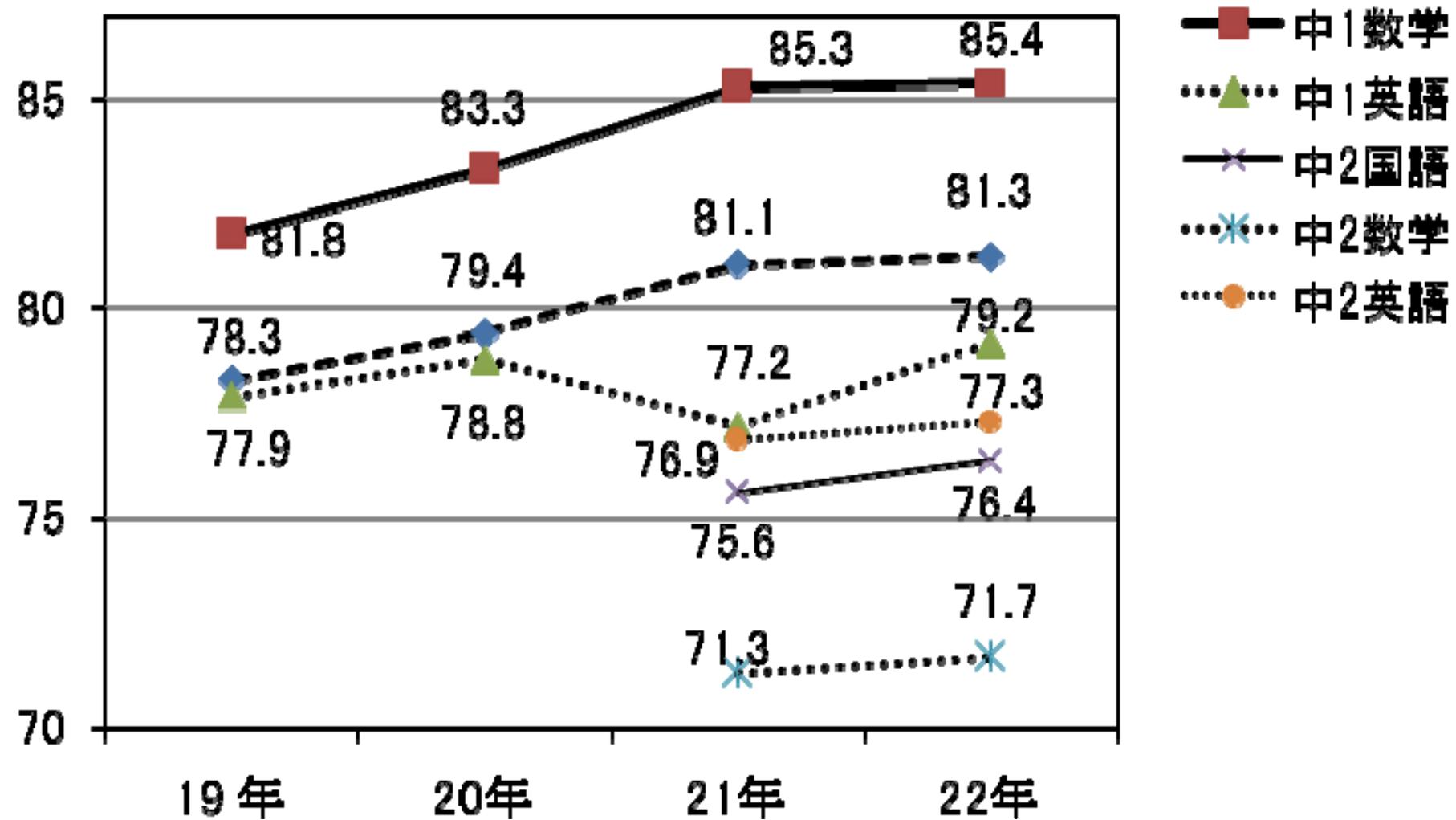


# 三鷹市学習到達度調査結果 経年変化

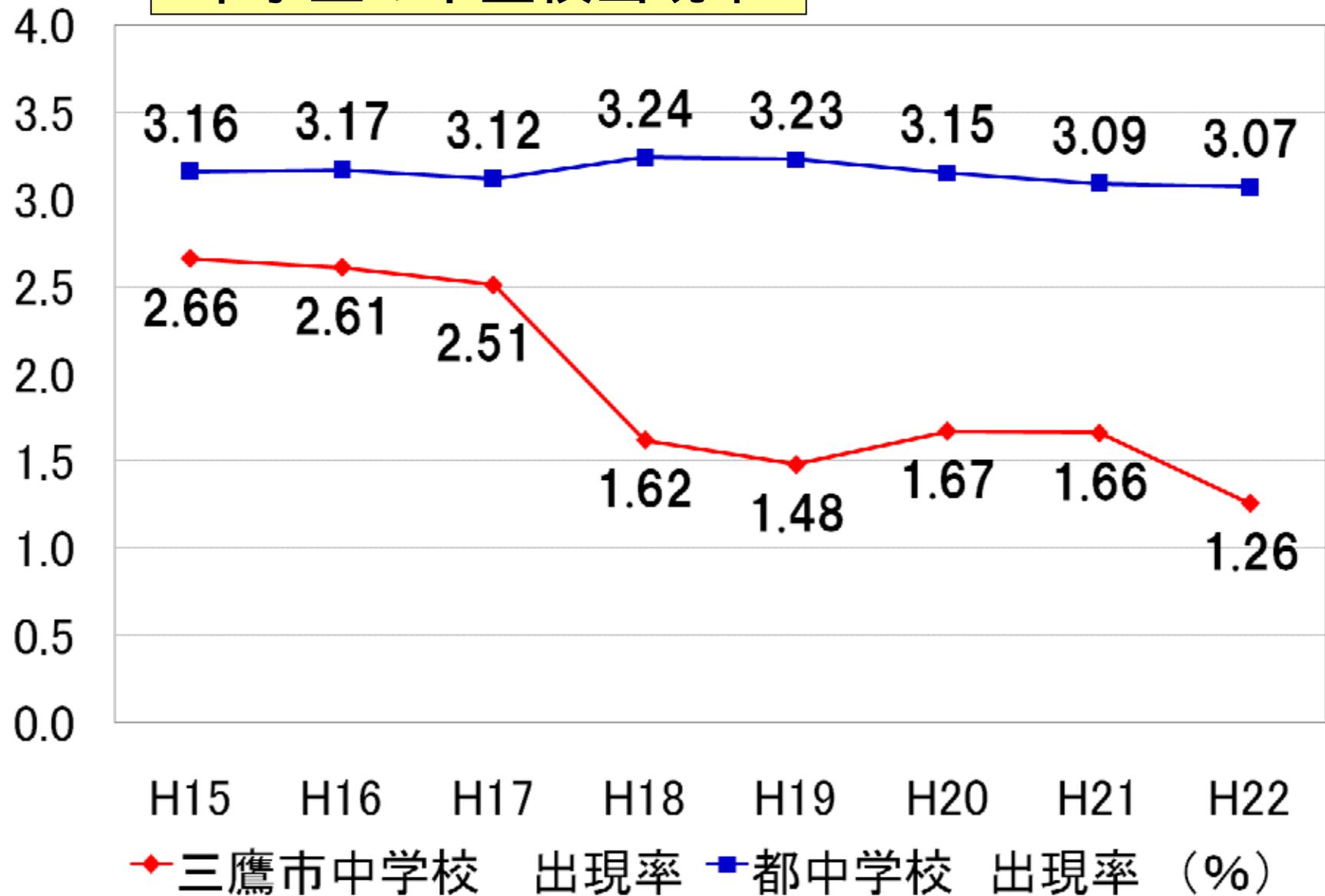
市学習到達度調査 小5・6 平均正答率 (%)



市学習到達度調査 中1・2 平均正答率 (%)



## 中学生の不登校出現率



# コミュニティ・スクール

「コミュニティ・スクール」を基盤とした学校づくりを進め、学校・家庭・地域社会が協働で子どもの教育を行います。



# 三鷹市のコミュニティ・スクール指定状況

H18.10.6	三鷹市立第四小学校 三鷹市立第七中学校
H19.4.1	三鷹市立第二小学校 三鷹市立井口小学校 三鷹市立第二中学校
H19.7.11	三鷹市立大沢台小学校 三鷹市立羽沢小学校
H19.9.10	三鷹市立第一小学校 三鷹市立第三小学校 三鷹市立第六小学校 三鷹市立南浦小学校 三鷹市立中原小学校 三鷹市立北野小学校 三鷹市立東台小学校 三鷹市立第一中学校 三鷹市立第六中学校
H20.4.1	三鷹市立第三中学校 三鷹市立第五小学校 三鷹市立高山小学校
H20.9.1	三鷹市立第七小学校 三鷹市立第四中学校 三鷹市立第五中学校

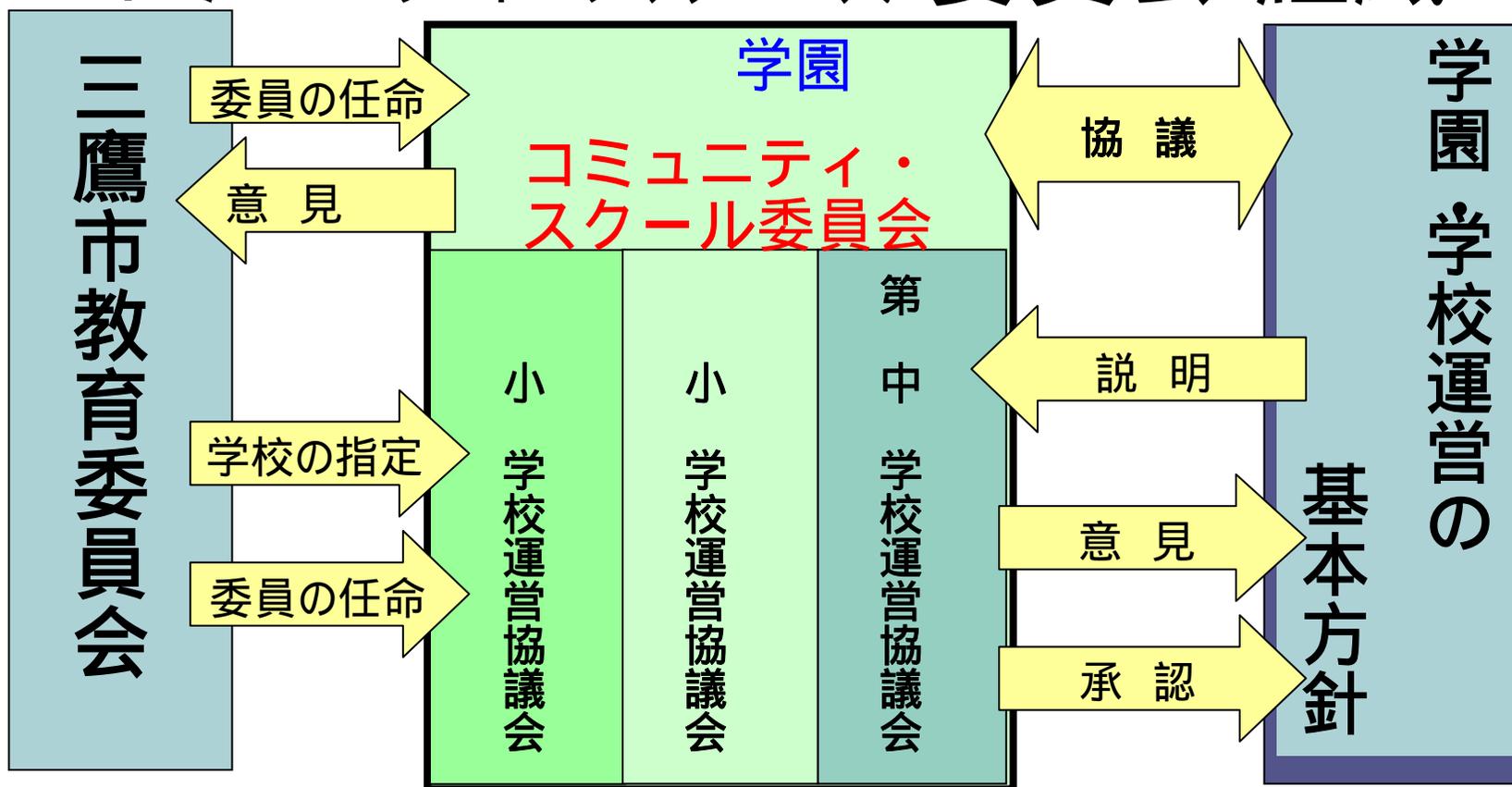
平成18年度の2校の  
指定をスタートに  
順次平成20年度まで  
に

小学校 全15校  
中学校 全 7校

全ての市立小・中学校  
合計22校が

コミュニティ・スクール  
に

# 三鷹市立小・中一貫教育校の コミュニティ・スクール委員会 組織



# コミュニティスクール委員会 - 委員とその役割 -

- 位置づけ 教育委員会が設置する協議機関
- 委員 教育委員会が任命、任期2年  
非常勤特別職員の身分
- 学校運営 学校の基本方針や教育課程等の  
承認・市教委・校長に意見
- 人事 教員の採用、任用について  
任命権者に意見

メンバーは…

学識経験者

学校

保護者

同窓会

住民協議会

ともに

PC  
アドバイザー

青少対

民生児童委員

交通対

# サポート隊の活動

- × 学習活動の援助
- × 環境整備・安全管理

	学習支援	環境支援
専門的	ゲストティチャー	施設メンテナー
一般的	学習アシスタント	環境サポーター

# コミュニティ・スクールを基盤とした 小・中一貫教育の推進

学校が変わり、  
保護者が変わり、  
地域が変わる



### (3) 小・中一貫教育校としての教育活動

- ・小・中学校間の相互乗り入れ授業
- ・小学校相互、小・中学校間の児童・生徒の交流活動
- ・小・中学校教員の合同授業研究等の研究会
- ・小・中一貫カリキュラムの検証及びそれに基づく系統性と連続性を明確にした授業実践、授業改善の状況



#### 成果

- ・自然教室、水泳交流、プレ中学生体験、部活動体験、中学生の小学校ボランティア訪問等の小・小及び小・中間の交流活動により、学園の子供としての一体感が育っている。
- ・相互乗り入れ授業に関しては、児童から「専門的な内容を分かり易く教えてもらい、興味をもった。」、生徒から「小学校の先生に分からないところの質問がしやすい。」という声が多くあった。教員も、互いに指導法を学ぶことができ、成果をあげることができた。
- ・教職員アンケートでは、「研修等により子供の9年間の成長を把握できた」「つまずきを知り既習事項を踏まえた学習の見通しをもてた」等の肯定的意見がある。

- 小・中学校の教員同士の**相互理解**が促進され、  
協し合う**姿勢**が定着してきた。
- 小・中学校教員の授業交流が  
児童・生徒の**学習意欲の向上**につながった。
- 小・中学校教員の授業交流等が  
児童・生徒に**安心感**をもたらした。
- 児童・生徒の交流は、  
**思いやりの心**など豊かな人間性をはぐくむ。
- 児童・生徒の交流は、  
児童に**中学校へのあこがれ**をもたせる。
- 小学校間の交流や小・中学校間の交流は、  
児童に**中学校への期待**をもたせる